

24OP4-4

悪性腫瘍との鑑別を要した下顎骨 Garre 骨髓炎の一例

金子 明代¹⁾、中井 倫子¹⁾、内藤 岳志¹⁾、石田 宏之¹⁾、吉原 隆夫¹⁾、大林 茂樹²⁾

松下記念病院 小児科¹⁾、大阪大学歯学部第2口腔外科²⁾

〔はじめに〕Garre 骨髓炎は、若年者の下肢長管骨や下顎骨に好発し、外骨膜性骨新生による硬化性の肥厚がみられる比較的稀な慢性骨髓炎である。今回画像所見から悪性腫瘍との鑑別を要したが、最終的に Garre 骨髓炎と診断した1例を報告する。

〔症例〕12歳、女児。Graves 病のため当科で外来加療中であったが、発熱、右頬部の腫脹と開口障害を主訴に来院した。口腔内には萌出性歯肉炎が疑われ、右下顎部に硬性腫脹と圧痛を認めた。血液検査では WBC 11200/ μ l、CRP 5.0mg/dl と中等度の炎症反応を認めた。血液培養は陰性であった。下顎周囲の蜂窩織炎と考え ceftriaxone 投与を開始した。しかし、CT では右下顎枝に骨硬化像と融解象がみられ、周囲に骨膜反応を認めた。MRI では同部位に T1WI で低信号、T2WI で高信号の腫瘤状病変と周囲の咬筋に造影効果を認めた。骨および Ga シンチグラムでは同部位に異常集積があった。画像所見は骨軟部の悪性腫瘍との鑑別を要したが、臨床的には抗生剤に対する反応は良好で、治療開始後すみやかに炎症反応は消失し、右下顎部の腫脹と疼痛は軽快した。画像所見と経過より、下顎骨内の永久歯歯胚の感染による Garre 骨髓炎と診断した。抗生剤は erythromycin の内服に変更し、症状は消失した。

経過観察中の Ga シンチグラムでも軽度の異常集積は残存し、一年後に症状の再燃を認めたが、再び抗生剤投与にて消失した。

〔まとめ〕Garre 骨髓炎は非化膿性とされるが、う歯や抜歯などの口腔内疾患がきっかけとなる場合が多く、口腔内常在菌や嫌気性菌との関連が疑われる症例もある。このため口腔内疾患の治療とマクロライドを中心とした抗生剤投与が行われ、経過は良好とされるが、再燃も報告されている。小児科領域ではなじみのない疾患であり、同部位に発症する骨肉腫や Ewing 肉腫などの悪性腫瘍との鑑別が重要である。典型例では画像所見と経過より診断されるが、最終診断には生検が必要である症例も多い。

24OP4-5

放射性膀胱炎の治療に難渋している子宮原発滑膜肉腫治療後の1女児例

佐々木 英之¹⁾、水野 大¹⁾、堀江 圭²⁾、友安 信²⁾、出口 博之²⁾、谷田 達男²⁾、遠藤 幹也³⁾、菅原 和華³⁾

岩手医科大学 小児外科¹⁾、岩手医科大学 呼吸器外科²⁾、岩手医科大学 小児科³⁾

症例は16歳女児である。13歳9ヶ月時に腹痛で発症し、CTで骨盤内に腫瘍が認められた。13歳10ヶ月時に手術が施行された。開腹所見では子宮原発の腫瘍であり、腫瘍は子宮広間膜へと進展していた。病理組織学的には当初 poorly differentiated spindle and epithelioid cell tumor, unclassified と診断された。術後化学療法として VAC 療法が1クール施行されたが、術後8ヶ月で、骨盤内再発を認めたため、再発腫瘍摘出が施行された。再度の病理組織学的検索で最終的には滑膜肉腫と診断された。術後に自家末梢血幹細胞移植、超大量化学療法と、骨盤内に総量 50Gy の放射線療法が施行された。その後は再発徴候無く経過していたが、15歳10ヶ月時から血尿が見られ、16歳1ヶ月時に膀胱鏡を施行したところ、放射性膀胱炎と診断された。高圧酸素療法、膀胱洗浄、止血剤投与により経過観察されていたが、16歳3ヶ月時に大量の膀胱内出血と尿閉をきたし、入院となった。CT、MRI では骨盤腔などに再発をうたがわせる所見を認めなかった。また膀胱鏡を施行したところ、膀胱内には大量の血腫があり、これを除去したところ、血管腫様病変からの持続的な出血を認めていた。膀胱内に腫瘍性病変を認めなかった。以後、尿道から挿入したカテーテルによる持続的膀胱洗浄を行っていたが、出血がコントロールできなかった。よって KTP レーザーによる膀胱粘膜焼灼術を、出血が増悪するたびに施行した。さらに持続洗浄の効率をあげるために、膀胱瘻を造設して高流量での膀胱内持続洗浄をおこなった。その治療の結果、徐々に出血の頻度は減少している。放射線治療後の放射性膀胱炎の治療法としては、膀胱洗浄、止血剤投与などが一般的に行われる。そして難治性の症例では高圧酸素療法やレーザーによる止血が行われている。今回の症例に対しては、これまでに報告されている治療法を積極的に適応してきたが、その治療に難渋し、患者の QOL を著しく低下させている。今回は、これまでの経過を報告すると共に、今後の治療方針などについて、考察を加えて報告する。